



兵庫教育大学 大学院同窓会 会報

第一二六号

平成十四年三月一日発行

兵庫教育大学大学院
同窓会 広報事業部

「21世紀新構想大学プラン」のことなど

兵庫教育大学長 中 洌 正 堯



学長に就任してからちょうど1年になります。その間に、同窓会の関係では、昨年（平成13年）1月4日、鳥取県の上越・兵庫・鳴門三大学同窓会に出席、1月26日、宮崎県学校図書館教

育研究会・県北大会の後で、修了生のみなさんと懇談、8月18日、第21回兵庫教育大学大学院同窓会広島大会に参加などがあり、そのつど大学の現況などお話ししました。
8月18日の広島大会の折は、国レベルでの大学の再編・統合の話が出てまもなくのことでした。大学の発展のためには、大学院修了生のみなさんの結束はもちろん、いっそうの協力をお願いすると同時に、大学もその体制づくりを進めなくてはならないことを申し

ました。

その後、国立の教員養成系大学・学部の在り方に関する懇談会（在り方懇）と略称）の審議経過があり、近隣諸大学と相互に動静を確かめながら、今日に至っています。

そうした中で、本学は、いわゆる新構想大学の理念を、いま一度着実に推進するために、「21世紀新構想大学プラン」の策定を始めています。独立であっても、再編・統合であっても、本学として今後貫いていこうとするプランを、この機会に考えようとするものです。

大学の再編・統合とは別に、学内では、もう何年も前から、「学校教育学会」の運営が問題になっていました。この種の学会の運営の難しさは、いわゆる新構想大学の理念の具現化の難しさをそのまま象徴しているようにも思えます。その要因は、たとえば次のような点に見出されます。

○旧来の学問が専門分化の方向をとってきたのに対し、学校教育学が包括的であること。○旧来の学問が現場性をレベルの低いものとする傾向にある

こと。○学会は、学会員の自由意思によって構成されるものであり、大学が運営するものではないとすること。

これらは、今後、同窓会と大学の構成員が協同して克服する必要があります。その可能性は拓けると思っています。

大学の努力事項として、「21世紀新構想大学プラン」に、「修了生を結ぶ実践研究の推進」を掲げようとしています。また、学校教育研究センターの改革によって、予算配分の伴う（大学の運営の一環とする）措置を講じようとしています。

いささか個人的なことになりますが、私自身、現在も、修了生のみなさんと、月に1回、大阪で国語教育探究の会を開き、さらに、隔月に1回、神戸で国語論究の会をおこなっています。前者は小学校中心、後者は高等学校中心の会です。

こうした点のような実践研究の各地での営みをつなぎ、あるいは新たに起こして、点から線へ、線から面へと広げ、それを大学が支援する（教官の本務の1つとする）システムを確立したいと思っています。

21世紀の同窓会の在り方

大学院同窓会会長 吉田 廣

会員の皆様には、全国それぞれの学校や教育機関にて、日々ご活躍のことと思います。

平素は、同窓会の事業推進に格別のご理解とご協力を賜るとともに、同窓会20周年記念事業へのご支援に心よりお礼申しあげます。

さて、第16期中央教育審議会答申「今後の地方教育行政の在り方について」や地方分権一括法によって、中央集権型社会から地方分権型社会へと移行しつつあります。

文部科学省は、2001年を「教育元年」とする国の教育改革をスタートさせるとともに、遠山文部科学相は、新しい時代にふさわしい「教育基本法」の在り方の審議に加えて、教育改革のための財政措置及び「教育振興計画」の策定を諮問しました。諮問に当たり文部科学省は、基本法の審議に先立って、教育振興計画を策定するよう求め

ています。

これら教育の再生や新生を目指す改革の波は怒濤のごとく教育現場に押し寄せてきています。

しかし、国の方向や方針が示されようとも、改革を進めていくのは、教育委員会や学校、教師であり、国と現場の波長が噛み合わなければ改革も実効あるものとなりえません。

なぜなら、プランを現場で具現化していくのは、教育委員会や学校、教師等、そして支援者としての保護等の理解と協力が不可欠だからです。

さらに、この改革は、戦後の教育の普及・発展の中で起きてきた教育課題、すなわち、「いじめ」・「不登校」・「中途退学」などの課題に解決への展望を示すとともに、解決へのはずみを与えるものでなくてはなりません。

ところで、教員には、教育者としての使命感や深い人間愛、広い視野と豊

かな体験、識見や実践的指導力など専門職としての高度な資質が求められています。

教育改革が進められるこの時期、兵庫教育大学大学院での2年間の研鑽の成果が期待されます。大学院及び現場での教育活動の充実支援を行うことが同窓会の目的の一つです。

昭和57年2月に発足以来、同窓会は活動の充実に努めてきましたが、20周年を経過した現在、会員数の増加に伴うサービスマシンの問題や事務処理の問題とともに現職教員派遣減から来る収入減の問題等々の課題を抱えています。

これらの課題の中には、同窓会で解決できるものと大学や学校教育センターとの連携により解決できるものとに分けられます。今後、役員会等で課題を精査し、会員へのサービスマシンの向上を図っていきたく考えています。

8月の広島市での大会以来の主な活動を紹介すると、9月に名古屋市内で組織部の会議が持たれ、名簿の発行及び組織の活性化等が話し合われました。11月には、大学において学校教育学会が開かれ、学会の在り方について活発な議論が交わされました。継続事業である「21世紀への教育の提言」につい

ては、編集作業が進捗中であり、教育現場からの声として集約し提言として印刷配布を行ってまいります。

本年度の重点事業としては、情報のネットワーキ化を促進していきたいと考えています。

現在、修了生に対する大学からの指導及び情報提供は、大学へ出向いて直接指導を受けるか図書館で直接貸出し等のサービスマシンを受けるくらいです。

同窓会員は全国各地にちらばり、度々、大学を訪れるということは無理ですが、逆にこの特徴を生かすことができなかつたかと思えていたところ、IT化による情報の交換・交流が可能にならないかということで予算措置をいたしました。大学当局や学校教育センター等においても検討がなされていると伺っています。

なお、メールアドレスの取扱いについてはプライバシー保護のこともあり、各人の了解を得て慎重に取扱っていきたくと考えています。

これらの点を含めて会員の皆様のご意見やご要望をお聞きし、活動を推進します。同窓会会員の皆様の各事業の積極的な参加と変わらぬご支援をよろしく願います。

◎大学から情報提供

○大学広報誌『教育子午線』の配付（希望者）～庶務課企画法規係～
内容については大学のホームページに掲載していますのでご覧ください。また、冊子をご希望の方は、庶務課企画法規係（TEL 0795-44-2011）まで連絡いただければ送付させていただきます。

○常時、各種証明書の申し込み方法をホームページに掲載～大学院教務係・学部教務係～
（修了生へのおしらせ）

○最新の募集要項及び大学案内の送付～入学主幹室～
お知り合いの方で、最新の募集要項及び大学案内を希望されている方をご紹介ください。修了生の方からのご連絡に限りこちらから資料を送付させていただきます。
連絡方法については、送付先の郵便番号、住所、氏名及び修了された方の名前を明記の上、FAX（0795-44-2069）でお願いいたします。

○附属図書館の利用案内～附属図書館～
附属図書館は、修了生・卒業生の方々の学習・研究を支援するため、また、地域に開かれた図書館として、平日は午後10時まで開館していますので、どうぞご利用ください。

1. 開館時間について

(1)開館時間

月～金 9：00～22：00

土曜日 9：00～17：00

(2)長期休業期の開館時間

（春期3/17～4/5、夏期8/1～9/30、冬期12/25～1/7）

月～金 9：00～17：00（9月のみ9：00～20：00）

土曜日 休館

2. 休館について

日曜日、祝日、年末・年始（12/26～1/4）、各月末

3. 図書の貸出について

貸出限度冊数及び貸出期間 5冊、3週間

4. 館内所蔵資料の複写サービス（1枚35円）

月～金 9：00～12：00、13：00～16：30

5. 住所・氏名を確認できるもの（職員証、運転免許証など）をご持参ください。

※インターネットの附属図書館ホームページでも、さまざまな情報をお知らせしていますのでご覧ください。（URL：<http://www.lib.hyogo-u.ac.jp/>）

○修士論文概要データベースの提供～学校教育研究センター～
修了生の修士論文の題目及び簡単な内容は、ホームページ上で公開していますが、この冊子をご希望の方には返信用封筒（角2）をご用意いただければお送りいたします。また、データ（フロッピーディスク）でもお渡しできます。

（URL：<http://www2.ceser.hyogo-u.ac.jp/>）

TEL 0795-40-2201

○学校教育研究センターで行った研究の報告書の提供～学校教育研究センター～
報告書をご希望の方には返信用封筒（角2）をご用意いただければお送りいたします。（数に限りがあります）

兵庫教育大学ホームページアドレス

（URL：<http://www.hyogo-u.ac.jp/>）

TEL 0795-44-1101（代表）

広島大会 講演

「選手づくり・人づくり」より

サンフレッチェ広島総監督 今 西 和 男

1. 独身寮管理運営者として

昭和38年東洋工業（現マツダ株）入社、健康保険課に配属されました。当時、企業では、運動強化選手以外は運動をしていませんでした。企業は、アマチュアスポーツの強いチームを作って従業員の意識統一のため、帰属意識の強化のために援助をしていました。

昭和43年には、日本チームがメキシコオリンピックで銅メダルをとりましたが、残念ながら私はけがのため出場することができませんでした。翌年には引退ということになりました。昭和44年にサッカーの選手をやめた時、会社から「お前、寮で若者と一緒に遊び、いろいろな指導をしてくれないか」と白羽の矢が立ちました。サッカーチームとしても私を指導者として育てようという思いがあったのでしょうか。しかし、寮の管理者としての仕事もサッカー

ーチームの活動も同じ時間に始まるわけです。だんだんとグラウンドへの足が遠のいて、結果的には2年後、サッカーの方は断念しまして、独身寮の管理運営をどのようにするかという仕事になりました。

仕事期間中に社員教育をすることは、強制的にもできませんが、寮では、拘束力は全くないわけです。そこで私は一緒に遊ぶしかないと考えました。一緒に遊ぶ中で、遊びの中にもルールがある、ルールを守らなければ楽しくないということを経験的に分かってもらいたいと考えました。いろいろやってみましたが、一番効果があったのは野外研修でした。2泊3日で例えば、県民の森などに行ってキャンプをしながら遊び、勉強しました。キャンプでは、協力してテントを張ったり、一緒に遊び、食事をし、夜はとにかくグループ

ごとにテーマに従って話し合いをさせるようにしました。職場でも一般世間においても自立していくためには自分のことを伝え、しゃべれるようになるなければならぬだろうと私は考えました。

2. サンフレッチェが歴代監督を外国人にしているのは：

サンフレッチェは、今までずっと外国人の監督でやってきました。実は日本人の監督でやりたいのです。コミュニケーションの問題はないし、安くつくんですが、ずっと外国人の監督で通してきたのは訳があるのです。外国人の監督は、長い歴史の積み重ねの上で立って守っていることがあります。それは、パズルを一つひとつ、埋め込んでいくような教え方をします。日本人の監督は、そうではなく、2つ、3つを同時に教えようとするのです。今年、サンフレッチェは、バレー監督に変わりました。それまでのトムソン監督は、守備的なサッカーをしていました。しかし、サポーターは守備的なサッカーはもういい、とにかく攻めておもしろいサッカーがみたいとインタ

ーネットなどを通じて要求してきました。バレー監督は、韓国のチームで現代的なスピードのあるサッカーをしていました。その後、監督が中国に行くくと観客が3倍に増えました。非常に

おもしろいサッカーをしていたのです。胸が弾む思いでトレーニングを開始しました。守ると言えば心がネガティブになりますが、攻めると言えば、胸が踊るわけです。監督は、まず攻撃についての指導をし、一つひとつパズルをはめていくように教えていきました。練習の1時間前には、毎日、スタッフ全員が集まって意思統一をするんです。トレーニングが始まる10分前には、トレーニングの趣旨を選手に説明して徹底させる。終わったら、30分から1時間、いろいろな問題をみんなで出し合い、一つずつ解決していく。最終的には、監督が選手を呼んで今日何があったのか、どんな問題があったのか話をしているのです。監督のやりたいことができるようになるのに1年や2年かかっています。戦えるチームにするためには、まずコミュニケーションの問題があります。サッカーは、タイムが

とれない。指示が通らない。だから、グラウンドで監督の意向を自分の意志で遂行できる選手がたくさんいればいいのです。サンフレッチェの場合はそうもいきませんが、チームは上向きで、来年には、優勝を争えるチームになると考えています。

3. 社会人として通用する人に

選手がある年齢になったときに、その年齢にふさわしい考えや行動がとれるようにということをベースにおいて、それをするためにはどういう教育をしなければならないのかということをコーチ、マネージャー、トレーナーと話し合ったことがあります。その結果、選手を大人にする必要があるということになりました。大人とは、自己管理ができる、自分のやったことに責任がとれる、一方通行でなく、相手のいうことを聞き、対話ができる。できれば、弱者の気持ちや心の痛みを分かちあけることができること、そういうことができる人が大人ということができたらうと考えました。この4つの中で、まず、自分の意見をもつことから始めようということになりました。聞くこと、話す

こと、読むこと、書くこと、考えること、この5つの基本的なことを教えようということ。最近の子は本を読みません。でも、新聞で世の中でどんなことが起こっているか情報を入れるようにしなさいと言いました。また、考えることもあまりしません。手を伸ばせばなんでも手に入るわけですし、オートメーションの上ののっぺいば生きていけますから考える習慣がない。しかし、考える習慣のない子は伸びません。

私は常々選手達に、「いい先輩を捕まえない。そして、いいところを自分の生き方の中に取り入れていきなさい」と言っています。今の子どもたちは、同級生と一緒にいるのが一番いいんです。先輩といると一応上下関係がありますから、気を遣わなければならぬ。下級生の世話をしたり、めんどうをみるのは面倒くさい。一番居心地がいいのが同級生なのです。そうすると大人になる速が遅くなってしまう。選手だけでなく、コーチ達にもサッカー界だけでなく、異業種の人たちと付き合いなさいと言っています。その中

で興味深いこともあるだろうし、いろいろな知識を得られるだろうし、自分の興味を示すことがあれば話に入っていくことができる。そうすると、自分の喜びだとか楽しみとかが全然違ってくる。一つの業種の世界でいまずと、活性化もしないし、外から見るとおかしいことも当たり前にか感じなくなります。

4. サッカー協会の仕事をして

—人として大切なものは何か—

鉄は熱いうちにうたないとダメですね。小学校までにある程度のしつけをしていないといくら下流を清掃してもダメですね。水の流れば上流から下流に流れるわけですから、上流をきれいにしておかないといけません。つまり、若いうちにそういうことを教えておかないといけないと思います。

サッカーでプロになって成功するかどうかという分岐点があります。サンフレッチェにユースチームというのがあるんです。高校生のチームです。普段の生活を見ていたら寮のなかでだらしないとか就寝時間や起床時間が守れない子は、学校での評価もあまり

高くないんです。トレーニングはどうかという90分間集中力が持続しないとよい選手とは言えないわけですが、最初の15分間、前半の終わりの5分間、後半最初の10分間、最後の5分間というようにしか集中力がもたない。要は、サッカーで集中できない子は、普段の生活での集中力がもたない。昔は、勉強が嫌いで嫌いでしょうがない、普段の生活では、学校にも行かなかつたりするけど、サッカーだけは集中するという子もいましたが、今の子はそうではありません。どこかがダメな子は必ずしもそう。切り替えができないのです。コンスタントにチャレンジすることができない子はいい選手になっていません。言われて治る子もいますけど、伸びる子は、言われなくてもそれをやっています。中学校、小学校もつ前から習慣としてできている子は伸びます。そうでないと伸びません。習慣になつていけばいやじゃなくなるんですよ。子どもたちに恥ずかしいとか、照れくさいとか感じさせないような習慣をつけてあげることが大切なのではないでしょうか。

サンフレッチェの選手達に言うので
す。君たちはいずれサッカーをやめる。
この人は選手の時にすごくひたむきに
サッカーをしていたなどいわれる選手
になれば、多くの人に支えてもらえる。
みんなに気持ちよく挨拶できるとか、
サインに応じてくれるとか、ファンサ
ービスをするとかね。あの選手は感じ
のいい選手だなど思ったら、応援した
いという気持ちになってくれる。年齢
とともに自分の蓄積したものが現れて
くるんですよ。是非、感じのいい選手
だと思われる選手になってもらいたい。
それが、必ず財産になる。サッカーを
やめて何かの仕事をしたときに、威張
らないでだれに対しても親切に、おご
らず、ちゃんとつきあえる人は、それ
が財産になると話しています。

今日、私がお話したことは、スポ
ーツのしかも勝つか負けるかによつて
大きく左右される社会なものですから、
みなさん方とは違った世界かもしれま
せんが、指導の原則については同じよ
うなことがあると思います。年齢の低
い子、あまりレベルの高くない子ども
たちに対して絶対に複数のことを要求

してはいけない。要求することは一つ
だけ。いくつかできるようになって、
初めて二つのことを要求するとか、目
線を同じにして話をするとかです。私
がチーム作りをする上で最も大切にし
ていることは、コミュニケーションで
す。それから、お前はやってもダメだ
というようなことを言っていたのでは
だれもついてきません。「君はできるん
だよ」と励ましてあげれば人は変わ
ります。「君を絶対誰かが見てくれてい
る」と励ますことを続けていただきま
すようみなさんにもお願いいたします。



編 集 後 記

第21回兵庫教育大学大学院同窓会広
島大会が平成13年(2001年)8月
18日・19日に盛大に開催されました。
広島大会は、広島支部(もみじ会)の
第15回総会を兼ねて実施し、今までか
かわりの強かった上寺久雄元学長や顧
問の岩田一彦教授を来賓として招待さ
れるなど、大学との結び付きを確認す
ることができました。

また、広島の特徴を出す講師選定に
も工夫がありました。プロのサッカー
チームサンフレッチェ広島島の総監督の
講演では、教育関係以外からの教育の
在り方等を学ぶことができました。講
演の一部を抜粋して、記載させていた
できました。

さて、今回の会報は21世紀最初の会
報となりました。学長からは「21世紀
新構想大学プラン」、会長からは「21
世紀の同窓会の在り方」のように21世
紀を意識した編集となりました。

ともによりよい21世紀の教育の創造
に努めましょう。

役員等名簿

自 平成13年6月1日～至 平成15年5月31日

役職名		氏名	ブロック名	各 県 評 議 員																		
会 長		吉田 廣(兵庫)	近畿①	北海道	中村 保	富山	山 川	森山 義人	鳥 取	表 一俊	鹿 児 島	上村 伸雄	青 森	小林 一也	石 川	川 畑	松 晴	島 根	早 川	一 俊	鹿 児 島	上村 伸雄
副 会 長	研究部	小西 豊文(大阪) 岡本喜代治(奈良)	近畿②③	岩 手	石 亀 紀男	福 山	井 梨	小 林 宗一郎	岡 山	岡 本	神 戸 市	位 上 孝之	宮 城	今 野 英二	後 藤 恒充	長 野	原 俊朗	山 田	田 中	浮 夫	神 戸 市	位 上 孝之
	組織部	望月 茂(静岡)	中部・東海	秋 田	田 形 佐藤 晃	岐 阜	野 山	寺 田 道夫	徳 島	田 中	浮 夫	神 戸 市	位 上 孝之	山 形	石 川 不雄	静 岡	望 月 茂	香 川	野 島	悟 敏	神 戸 市	位 上 孝之
	総務部	塚崎 博行(兵庫)	近畿①	福 茨	城 吉田 重郎	愛 知	重 田	中 田	吉 己	福 岡	西 河 武	神 戸 市	位 上 孝之	山 形	石 川 不雄	静 岡	望 月 茂	香 川	野 島	悟 敏	神 戸 市	位 上 孝之
	事業部	川崎 寛(和歌山)	近畿③	栃 木	大 島 寿	滋 賀	賀 田	中 田	吉 己	福 岡	西 河 武	神 戸 市	位 上 孝之	山 形	石 川 不雄	静 岡	望 月 茂	香 川	野 島	悟 敏	神 戸 市	位 上 孝之
	広報部	山下 裕(広島)	西中国	群 馬	馬 猿 谷 端	京 都	桐 村	幸 雄	佐 賀	岡 崎	西 河 武	神 戸 市	位 上 孝之	山 形	石 川 不雄	静 岡	望 月 茂	香 川	野 島	悟 敏	神 戸 市	位 上 孝之
	会計部	北山 鎮道(岡山)	東中国・四国	埼 玉	柳 葉 和男	大 阪	小 山 田 穰	兵 庫	久 保 哲成	熊 本	分 崎	神 戸 市	位 上 孝之	山 形	石 川 不雄	静 岡	望 月 茂	香 川	野 島	悟 敏	神 戸 市	位 上 孝之
	M I	原田 広宣	院 生 協	千 葉	東 京 児 玉 祥一	和 歌 山	新 潟	石 井 生滋	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文	石 井 清文
監 事		◎岡崎 弘(和歌山) 位上 孝之(兵庫) 石井 生滋(兵庫) 石井 清文(東京) 川波 英一(福岡) 中園大三郎(大阪) 早川 求(島根) 中本 幸美(大阪) ◎印は監事長																				
各 ブ ロ ッ ク 代 表 者 氏 名	ブロック名	ブロック長	副ブロック長	担当部	各部担当者氏名(理事)																	
	東北・北海道地区	石亀 紀男(岩手)	今野 英二(宮城) 中村 保(北海道)		菅原 廣次(宮城) … (組織部理事へ) 西前 弘幸(岩手) … (組織部理事へ)																	
	関 東 地 区	小山田 穰(東京都)	松尾 鉄城(埼玉) 大島 寿(栃木)		壺内 明(東京) 荒川 兼一(東京) 佐々木 良一(埼玉)																	
	中部・東海地区 (福井を含む)	牛田 敏雄(三重)	寺田 道夫(岐阜) 勝俣 得男(静岡)	組織部 (6名)	鈴木 均(愛知) 川合 康司(岐阜) 牛田 敏雄(三重) 稲 光彦(福井) 須山嘉七郎(静岡) 山田 日吉(岐阜)																	
	近 畿 地 区 ① (兵庫・京都・滋賀)	久保 哲成(兵庫)	田中 吉己(滋賀) 天花寺博司(京都)	総務部 (8名)	森 一郎(兵庫) 大高 忠(兵庫) 田中 嘉明(兵庫) 伊井 直明(兵庫) 松村 喬(滋賀) 菅野 恭介(兵庫) 上西 一郎(兵庫) 西田耕太郎(兵庫)																	
	近 畿 地 区 ② (大 阪)	福島 真澄(大阪)	国枝 陽子(大阪) 村部 京子(大阪)	研究部 (5名)	阿比留喜久雄(大阪) 亀岡 計彦(大阪) 横山 昌計(大阪) 柴山 雅由(大阪) 樋口 洋三(大阪)																	
	近 畿 地 区 ③ (奈良・和歌山)	坂本 憲史(奈良)	浜野 重治(和歌山)	事業部 (5名)	浜野 重治(和歌山) 西端 幸信(和歌山) 和田 正美(和歌山) 岡本喜代治(奈良) 和田 光昭(奈良)																	
	西中国地区 (山口・島根・広島)	山下 裕(広島)	河野 勝行(山口) 加藤 武行(島根)	広報部 (5名)	西川 敏之(山口) 市川 博登(広島) 柿手 宣昭(広島) 藤原 尚幸(島根) 毛利 直己(島根)																	
	東中国四国地区 (岡山・鳥取・四国)	武 泰稔(岡山)	表 一俊(鳥取) 清田 公典(愛媛)	会計部 (4名)	山崎 文男(高知) 大久保 勉(岡山) 福島美由紀(岡山) 石居 研史(岡山)																	
九 州 地 区 (沖縄を含む)	川波 英一(福岡)	林 裕恭(宮崎) 村上 良典(鹿児島)		日高 義治(宮崎) … (組織部理事へ)																		
参 与	武 泰稔 宮崎 和夫 酒卷 成欣 塩瀬 昌雄 右藤 和弘																					

第21回兵庫教育大学大学院同窓会・広島大会



第21回兵庫教育大学大学院 同窓会 広島大会 平成13年8月18日 於 ホテルセンチュリー21 広島



▲懇親会



▲総会

来年度は
大阪大会で
集おう

期日：平成14年8月17日(土)
～18日(日)

会場：ロッジ舞洲まいしま

▶巡検
リパークルーズ…
原爆ドームを背景に

